

市立秋田総合病院 病院祭
第13回 いこいのコンサート

平成27年病院祭

平成27年10月31日土曜日に市立秋田総合病院病院祭を開催しました。当日は天候が優れず肌寒い1日でしたが、約350人ほどの来院者がありました。

特に、開始前から行列が出来ました「なんでも健康相談コーナー」では、骨密度測定、血管年齢測定、内臓脂肪測定、身長体重測定などを無料でを行い、延べ561人の方がそれぞれ測定されました。併設して設置いたしました栄養相談、お薬相談、看護・介護相談、リハビリ相談、医師による健康相談には延べ154人が相談に訪れました。

また、救急救命コーナー、バザーコーナー、ちびっ子コーナー、物産コーナーにも沢山の方にお越しいただきました。

午後から開始した「第13回いこいのコンサート」では女声合唱、フルート演奏、ソプラノ独唱などを行い、50人の聴衆を魅了いたしました。

引き続き「市民公開講座」では、「糖尿病ってどんな病気?」「肝臓病について」という演題で40人の聴講者に当院の医師が講演いたしました。

今後も市民の方の健康増進に寄与すべく、毎年病院祭を開催してまいります。

病院機能評価の認定が 更新されました。



▲受審の様子

当院では、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定を平成17年から受けていますが、この認定は5年間とされており、昨年8月に二度目の更新のための審査を受けました。

そしてこの1月に審査結果が発表され、右のとおり認定証が交付されました。

なお、今回は精神科領域について副機能として別途認定を受け、病院本体と合わせて2種類の認定証が交付されています。



▲認定証
(一般病院2)



▲認定証
(精神科病院)

■病院機能評価とは（日本医療機能評価機構HPより抜粋）

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者（サーベヤー）が中立・公平な立場にたつて、所定の評価項目に沿って病院の活動状況进行评估します。病院機能評価の審査の結果、一定の水準を満たしていると認められた病院が「認定病院」であり、認定病院は、地域に根ざし、安心・安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、常日頃努力している病院であると言えます。

シリーズ病棟紹介 — 第4回 —

6階南病棟

当病棟は、血液・腎臓内科、脳神経外科、神経内科の混合病棟で、血液内科医師4名、脳神経外科医師1名、神経内科医師1名、看護師22名、看護補助者4名が勤務しています。

血液・腎臓内科では、貧血から白血病などの血液疾患、ネフローゼなどの急性期の腎臓疾患や膠原病などで、また、脳神経外科、神経内科では、脳出血や脳梗塞、外部外傷、神経難病などで入院されている方が多いです。

緊急入院が多いことから、突然の入院による患者さんやご家族の不安に寄り添うことを心がけています。

また、脳神経疾患では入院当初から退院を見据え、医療相談室スタッフ、リハビリスタッフ、ケアマネジャーと連携を図ることにより退院調整を充実させ、退院後も自立した自分らしい生活が送れるように支援しています。

血液疾患では疼痛コントロールなど緩和ケアが必要な患者さんも多くいます。患者さんの中には「最後の時は自宅で家族とともに過ごしたい。」と希望される方もいます。その場合もその人らしい生活が送れるように緩和ケアチームと共にサポートしています。

人間愛に満ちた思いやりのある看護を実践できるよう日々奮闘しています。

6階南病棟看護師長 田口 恵子





加齢黄斑変性について

眼科 科長 阿部 早苗

加齢黄斑変性は、加齢により黄斑といわれる網膜の中心部が障害され、見ようとするところが見えにくくなる病気です。近年著しく増加しており、失明原因の第4位となっています。50歳以上の人の約1%にみられ、高齢になるほど多くみられます。

真ん中がゆがんでみえる、見ようとするところが見えづらいといった症状が最初に出てきます。片目に病気が起こっていても、両目で見ているといい方の目で見えてしまうため、気づかないことがあります。かならず片目を隠して確認することが大切です。

加齢黄斑変性を正しく診断するためには、視力検査、眼底検査のほかに、造影検査、網膜の断面を調べるOCT検査が必要です。市立病院には最新型のOCTが導入されています。短時間で体に負担をかけることなく検査ができ、病気になった部分を詳細かつ立体的に把握することができます。

加齢黄斑変性には萎縮型と滲出型の2つの種類があります。残念ながら萎縮型には現在のところ有効な治療方法はありません。

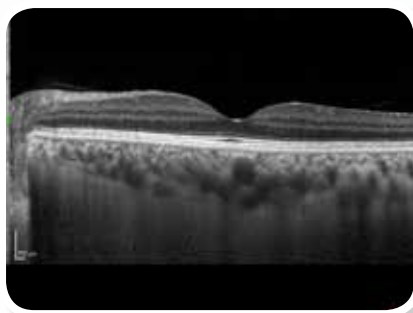
滲出型は異常な血管が網膜の下に侵入して網膜が障害される病気です。最近、滲出型にはいくつかの治療法が新たに開発され、多くの患者さんで視力の維持や改善が得られるようになってきました。代表的な治療は、異常な血管の勢いを抑える薬を目に注射する治療方法です。細い針を使って注射するため、痛みはほとんどありません。注射の後は、定期的に診察をして、病気の勢いが残っている場合は、繰り返し注射を行います。

加齢黄斑変性の予防には、禁煙、ビタミンC、ビタミンE、βカロチン、亜鉛などを含んだサプリメントが有効です。

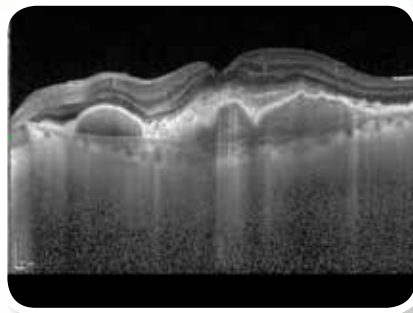
ゆがみや中心がみえづらいなどの症状がある方は、ぜひ一度眼科を受診してみてください。



▲OCT検査の様子



▲正常なOCT画像



▲滲出型加齢黄斑変性のOCT画像



公衆無線LANサービスを開始しました

来訪者への利便性の向上や外来待ち時間の有効活用の一環として、公衆無線LANによるインターネット接続環境を整備しました。

ご利用の際は、他の方の迷惑にならないようマナーを守ってご利用ください。

利用可能時間 平日 午前7時30分～午後6時まで 1日30分まで（1回15分×2回）

利用可能場所 総合案内周辺、会計窓口周辺、外来待合ホール周辺

感染管理認定看護師について

感染管理認定看護師 山本 由紀子

感染管理認定看護師には大きな役割が二つあります。

ひとつは「患者さんを感染から守る」こと、もうひとつは「患者さんだけでなく、病院を訪れる人、そして病院で働く全ての人を感染から守る」ことです。患者さんを感染から守るためには、患者さんだけではなく患者さんを取り巻くご家族や面会の方々、そしてもちろん職員のこともあらゆる感染症から守らなくてはなりません。

私はこの役割を果たすために、感染対策マニュアルの作成、病院内巡回による感染対策の現状把握や改善、院内感染発生率がどの程度なのかというサーベイランス（監視）、職員教育などを行なっています。

院内感染がまったくない病院が理想であるのは当然ですが、医療の高度化や抗生剤の使用、ノロウイルスやインフルエンザなど一般社会で大流行してしまう感染症の発生などにより完全にゼロにはできない現状もあります。そのような社会情勢の中でも、

可能な限り院内での感染が

拡大しないよう、そして患者さんやご家族が安心して当院を利用してくださるよう日々努力をしています。

また、患者さんへの感染を防ぐためには、我々医療者だけでなくご家族を含めた皆様方のご協力も不可欠です。これからインフルエンザや感染性胃腸炎の流行期となります。患者さんへインフルエンザ等が感染しないよう、秋田市内の流行状況によってはご面会をお断りさせていただくこともあります。入院中の患者さんにとっては、ご家族、お孫さん、友人のお見舞いはとても励みになります。しかし、知らぬ間にウイルスを持ち込んで感染させてしまつては悔やまれます。大切な方をウイルスから守るためにも、皆様のご理解とご協力をお願いします。



全職員を対象とした感染対策研修

部門紹介

医療相談室

皆さんは、ご自身やご家族が病気になって、健康な時には感じなかったいろいろな悩み事が出てきたことはありませんか？私たち、医療相談室のメンバーは、安心して療養生活が送れるよう、問題解決のお手伝いをしています。

現在、相談室には社会福祉士・精神保健福祉士・退院調整看護師が常駐しています。社会福祉士・精神保健福祉士は主に医療ソーシャルワーカー（MSW・PSW）と呼ばれ、療養生活に必要な社会資源の活用や、制度の説明、関係機関との調整を行っています。退院調整看護師は、主に在宅医療を受ける患者さんやそのご家族に対して支援を行っています。



地域包括ケアシステムが注目されている中、医療機関における退院調整部門の役割も重要視されてきています。相談内容も、退院調整に関わる件数は年間で述べ

10,000件を超えており、退院調整の必要な患者さんが増えているのが現状です。私たちが関わったケースの中には、中心静脈栄養を行っており、「絶対在宅は無理だろう」と思われていた長期入院患者さんもありますが、今では在宅で訪問看護を利用しながら、再入院もせず生活しているケースもあります。

入院・通院している患者さんの生活で、心配なこと・気になることはありませんか。少しでも長く地域で生活出来るよう、また、安心して退院後療養出来るよう、私たち医療相談室スタッフがお手伝い出来ることがありましたら、いつでもお声をかけてください。

医療相談室 社会福祉士 吉谷亜希子



アンギオ装置を更新しました

放射線科 科長 平野 義則

当院では平成27年11月にアンギオ装置が更新となりました。

アンギオ装置とは、X線を使って血管や腫瘍などの詳しい検査や、治療を行うための装置です。この装置を使用し、肝臓癌の治療や出血の原因となっている血管を詰めて止血、また透析シャントなどの血管が狭くなったところを広げる治療を、カテーテルという細い管を使って、切らずに治療を行うことができます。

以前はアナログ方式の装置でしたが、今回導入した装置はFPD（X線平面検出器）で取得したX線画像に様々なデジタル処理を加えることが出来る最新のシステムです。



- いくつかの機能を紹介すると、
- ・CTのような画像を瞬時に得られる「Dyna CT」
- ・3D画像に現在の透視画像を重ね合わせできる「3Dロードマップ」
- ・血管内カテーテルの誘導を支援する「エンボリゼーション ガイダンス」

などがあります。これらの機能を使用することで今まで必要だったCTへの移動が無くなり、また術中の被ばくも低減させることができるようになりました。

この新しい装置は今まで以上に患者様にもスタッフにも優しく安全で、質の高い医療を提供できると考えています。

地域医療連携の会 会員紹介

本間医院 本間 真紀子 先生



資格

循環器専門医、超音波専門医、認定内科医、プライマリケア連合学会認定医・指導医、日本医師会認定産業医、日本体育協会公認スポーツドクター、日本医師会認定健康スポーツ医、日本医師会ジョギング連盟ランニングドクター、認知症サポート医、秋田県糖尿病療養指導士

とある7月、出身大学から一通の郵便物が届きました。このたび、〇〇学生が先生のご指導を希望しております。つきましては、実習の主旨をご理解の上ご指導を賜りますよう、何とぞ宜しくお願い申し上げます。そして、8月医学生の方の来訪の日。彼女は、両親が医師という家庭に生まれ、この職業の大変さもやりがいも日常生活で肌で感じて育っている医学部3年生です。患者さんに紹介しながら、外来診療が進んでいきます。“聴診させて下さいませか?”、“どうぞどうぞよく聴いて勉強して下さいよ”と皆さんとても協力的で、なごやかに時間が過ぎていきました。しかし中には、入院が必要な患者さんもいて、先ほどとは打って変わって慌ただしい場面も。咳や痰で受診する方の中には、一見風邪かなと思っても肺炎を併発している方や、よくあるお腹の痛みも、中には急性虫垂炎のように緊急外科治療が必要な病態も混在しているのがプライマリケアです。しかも日本のプライマリケアの他国との決定的な違いは時間的制約です。そんな2日間に、彼女はプライマリケアの中に医療の本質を見抜いてく

れました。

実習後のレポートから：今までの病院実習でお世話になった大学病院とは違って、先生と患者さんの間には長い間の信頼関係があって、その中で先生が患者さんの発する小さな信号にも注目し耳を傾けてきたからこそ、今どんな言葉をかけるべきか、即座にどんな対処をすべきか、ということがわかるのだなと思います…。思い起こせば、我が後輩と過ごした2日間は、プライマリケアとは・理想的な家庭医とは、と改めて問うてくれるよい機会となりました。1、近くにあつて、いつでも何でも診察してくれる。2、診断、治療が的確で、その説明をきちんとしてくれる。3、入院による診断・治療が必要な時は、速やかに適当な病院を紹介してくれる。つまりプライマリケアとは、市立病院の諸先生・コメディカルの方々の多大なるバックアップなしにはできない医療なのです。日頃の感謝を“ふきのとう”の紙面に込めて、そしてこれからも引き続き宜しくお願い申し上げます。

市立病院&タニタ食堂「健康カフェ」のご案内

秋田県は、脳卒中やがんなど生活習慣が関係する病気の多い地域ですが、その予防は、日々の生活習慣を見直すことから始まります。

そこで当院では、昨年4月より健康食で有名なあきたタニタ食堂との共催で「市立病院&タニタ食堂【健康カフェ】」を開催しています。医療者から病気予防や健康維持のための話を聞いた後、タニタ食堂の健康食を召し上がっていただいておりますので、健康に関心のある方は、ぜひご参加ください。



開催日	時間	場所	テーマ	演者
2月10日(水)	午後4時 ～6時	あきたタニタ食堂 (秋田市中通一丁目4-3 なかいち1階)	感染症予防	医師・感染管理認定看護師
2月24日(水)				医師・感染管理認定看護師
3月9日(水)			認知症	医師・認知症認定看護師
3月23日(水)				医師・精神保健福祉士



※食事代として750円かかります。

要予約。予約先：当院経営企画室（TEL 823-4171）又は、あきたタニタ食堂（TEL 827-5125）



ファミリーマート市立秋田総合病院店のサテライトショップ

外来患者さんがすぐ利用できるように地下売店のサテライトショップを1階正面玄関近くに開設しました。

省スペースながら、おにぎりやサンドイッチ等の軽食から淹れたてのコーヒーまで販売していますので、ぜひご利用ください。営業時間は、開院日の午前7時30分～午後5時までです。



市立秋田総合病院

理念

- 市立秋田総合病院は、すべての人々の幸福のため、良質で安全な医療を提供し続けます。

基本方針

- 常に医療水準の向上に努め、地域の中核病院として多様化する医療への要望に応えます。
- 患者さんの権利や意思を十分に尊重し、診療情報の提供による相互理解に基づく医療を行います。
- 医療の安全のさらなる向上に努め、患者さんが安心できる医療を行います。
- 職員にとり働きがいのある就労環境の整備に努め、質の高い医療人を育成します。
- 業務の改善と効率的な運営に努め、健全で安定した経営基盤を確立します

編集・発行／市立秋田総合病院 平成28年2月10日発行

〒010-0933 秋田県秋田市川元松丘町4番30号 Tel (代表): 018-823-4171 Fax: 018-866-7026

E-mail: ro-homn@city.akita.akita.jp <http://www.akita-city-hospital.jp/>